

令和5年度 学校評価① 自己評価 職員用 集計

<教科等の学習指導>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等において、授業のユニバーサルデザインの視点に立ち、ねらいを明確に示すとともに振り返りの時間を確保する。またMINATOカリキュラムを活用と個に応じた指導の工夫・改善をし、基礎・基本の確実な定着を図る指導を行うとともに、発展的な学習を計画的・段階的に取り入れることができた。	4	9	3	0
②	課題の発見と解決に向けて教科等横断的な視点から単元計画、単元配列表等の作成し、個別最適な学びと協働的な学びを計画的に取り入れ、指導と評価の一体化を図り、生徒の学習や諸活動への能動的な関わりを促進することができた。	5	9	2	0
③	タブレット端末やICT機器を活用した個別学習やグループ学習等、指導方法を工夫し資質・能力の向上を図ると共理数教育の充実を図り、誰一人取り残すことない個別最適な学びと教師と生徒の力を最大限に伸ばすGIGAスクール構想の実現を目指すことができたか。	4	8	4	0

<評価>

	内容	A	B	C	D
①	単元や題材などの内容やまとまりを見通しながら評価の場面を工夫し、学習の課題や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上につなげることができた。(指導と評価の一体化)	5	10	1	0
③	指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等多面的・多角的な評価を行うことができたか。	6	7	3	0

<道徳>

	内容	A	B	C	D
①	道徳教育推進教師を中心に校内推進体制を整え、道徳の時間を計画的に実施し、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習に取り組むことができた。	7	8	1	0
②	「考え議論する道徳」の実践を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て道徳性を養わせること	4	10	2	0
③	道徳(実施、各学年の指導、内容、地区公開講座等)について適切でした。	9	6	1	0
④	道徳全体計画・年間計画は適切でした。	8	8	0	0
⑤	道徳の別業は適切であり活用できました。	1	11	3	1

<特別活動>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等で育まれた資質・能力を実践的な集団活動を通して、総合的で汎用的な力に変え、実生活で活用できるようにすることができた。	7	9	0	0
②	学校行事において、集団生活の意義を理解させ、集団の一員としての連帯感を高めるとともに、節度ある行動がとれる生徒を育成することができた。	9	6	1	0
③	学級活動、生徒会活動、学校行事等を通じ生徒が自主的に活動する機会や体験活動を充実させ、自主性や自発性の発達を促すことができた。	8	6	2	0
④	美術館と大学の支援による美術鑑賞授業で学年ごとに地域の美術館を訪問し、優れた作品に触れて感動したり、創造する喜びを感じたりする生徒の体験をとおして、豊かな心や思考力・表現力、言語能力の育成を図ることができた。	9	5	1	1

<総合的な学習の時間>

	内容	A	B	C	D
①	ICT機器等の活用や多様な学習形態を取り入れ、教科等横断的な視点から各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、身近な課題や興味・関心に基づく探究活動により、自己を見つめ、自己の生き方に活かす態度を養うことができたか。	5	11	0	0
②	環境や自然を課題とした問題の解決や探究活動を通して、課題発見・課題解決力を育成することができた。	6	8	2	0
③	総合の全体計画・年間指導計画・各学年の指導・内容等については適切でしたか。	8	7	0	0

<学校2020レガシー>

	内容	A	B	C	D
①	特別活動や総合的な学習の時間を中心に、学校における継続的な教育活動として学校2020レガシーに関する学習に取り組み、ボランティア・アミンド、障害者理解、豊かな国際感覚の育成に取り組み、多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる生徒の育成を図ることができた。	4	10	2	0

<環境教育>

	内容	A	B	C	D
①	「青山中学校まるごとSDGs」を掲げ各教科、道徳、総合的な学習及び特別活動においてピオトーブを活用するなどSDGsに関連する学習を計画的に実施し、環境の問題を理解するとともに、持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成を図る。	5	6	5	0

<国際理解教育>

	内容	A	B	C	D
①	英語科国際の授業等をおして、我が国の伝統と文化を理解、尊重するとともに異文化理解を深め、国際人としての資質やコミュニケーション能力の育成を図り、豊かな国際社会で活躍する人材を育成することができた。	5	11	0	0
②	国際理解教育推進部として取り組んだ内容は、生徒一人ひとりの国際理解への意識付けとなる取り組みとして有効であった。	6	9	0	0

<特別支援教育>

	内容	A	B	C	D
①	特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育委員会を定期開催し、巡回指導教員、特別支援専門員、スクールカウンセラー、学習支援員、介助員と学級・学年等との連携を密にし、個々の能力や特性を伸ばすことができるよう特別支援教育の充実を図ることができた。	8	7	1	0
②	個に応じた指導を徹底し個々の能力の向上を図るとともに、友達の良さを認めるなど温かい人間関係を構築することができた。	8	7	0	0

<言語能力の育成>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等で話し合い活動や議論する活動、レポート作成等、学年の発達段階に応じた言語活動の充実を図ることができた。	4	9	2	0
②	毎朝10分間の朝読書を含む読書活動の推進を図り、本を読む習慣を身に付けさせるとともに読書の楽しさを味わわせることができた。	7	6	3	0
③	読書への関心・意欲を高めるため学校司書と連携し、生徒の発達段階や興味・関心に合わせた本の紹介、貸出を行うことができたか。	7	6	3	0

<情報活用能力>

	内容	A	B	C	D
①	タブレット端末等を用いて得た情報を取捨選択し、自分のものとして生かしたり、得た情報を加工したりして他者に向けて発信するなど、プログラミング的思考力を育成するとともに、情報モラルについても理解し、情報活用能力を育てる。	4	7	5	0